

岡三フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド（為替ヘッジあり）/（為替ヘッジなし）
愛称　ザ・ディスカバリー

追加型投信/内外/株式

- 平素は「岡三フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド（為替ヘッジあり）/（為替ヘッジなし）」に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
- 本レポートでは、当ファンドの実質的な主要投資対象である米国を中心とした中型株の足元（2026年10月末まで）の投資環境と、魅力的なバリュエーション水準についてご紹介いたします。

バリュエーション面で投資妙味が高まっている米国中型株

AI関連株が調整する中、中型株は底堅く推移

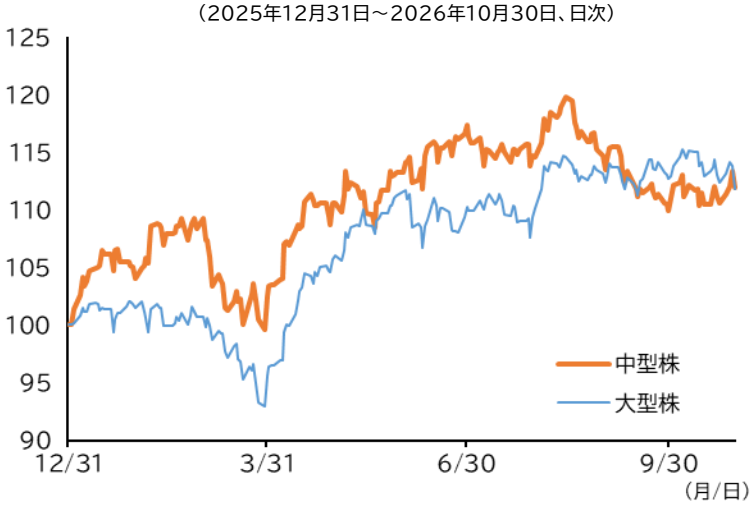
米国における中型株の今年の推移を見ると、年初以来、9月上旬までは概ね大型株を上回るパフォーマンスを示してきました。その後、9月末にかけては米長期金利の上昇などを背景に調整する場面もありましたが、10月末にかけて持ち直しの動きとなりました。

9月に中型株のパフォーマンスは大型株に劣後しましたが、中型株の利益成長力などファンダメンタルズに問題が生じたのではなく、長期金利の上昇やハイパースケーラーなど一部のAI関連株に市場の物色が集中したことが主な要因だったと考えています。

しかし、10月以降はAI関連企業の資金調達負担や投資減速への懸念などを背景に、市場の物色はAI関連株から他にシフトする動きがみられるようになりました。こうした動きの中、中型株は10月末にかけて相対的に大型株よりも底堅く推移しました。

図表1 年初来の主要株価指数の推移

（2025年12月31日～2026年10月30日、日次）



※2025年12月31日を100として指数化
※大型株：S&P500種指数、中型株：S&P400種指数
（トータルリターン、ドルベース）

（出所）LSEGのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

相対的に割安な中型株にシフトする動きも

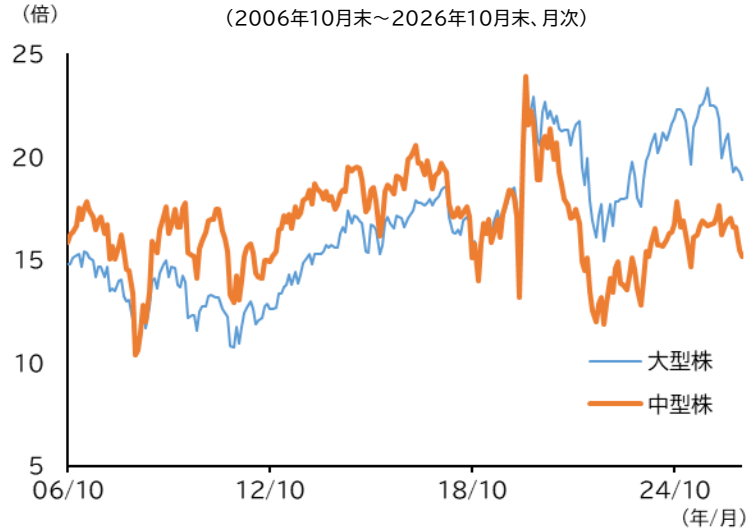
大型株はAI関連投資の先行きに対する不透明感の強まりなどから上値の重さが意識される展開となっています。一方、ハイパースケーラーなどAI関連の大型株が含まれない中型株は、こうしたAI関連投資を巡る懸念の強まりの影響を相対的に受けにくいとみられます。

また、大型株と中型株のバリュエーションを比較した場合、中型株のPER（株価収益率）の水準は大型株と比べて低く、相対的に割安な水準にあります。10月末時点のPERの水準は、大型株の18.9倍に対し、中型株は15.2倍に留まっており、グロース色の強いAI関連株から資金が中型株に向かう一因になっているとみられます。

もっとも、中型株への投資にあたってはバリュエーションに加えて、財務体質や価格決定力、キャッシュフローなどを勘案した銘柄選択が重要であり、そうした銘柄選択力が中長期でみたパフォーマンスのカギになると考えています。

図表2　規模別株価指数のPERの推移

（2006年10月末～2026年10月末、月次）

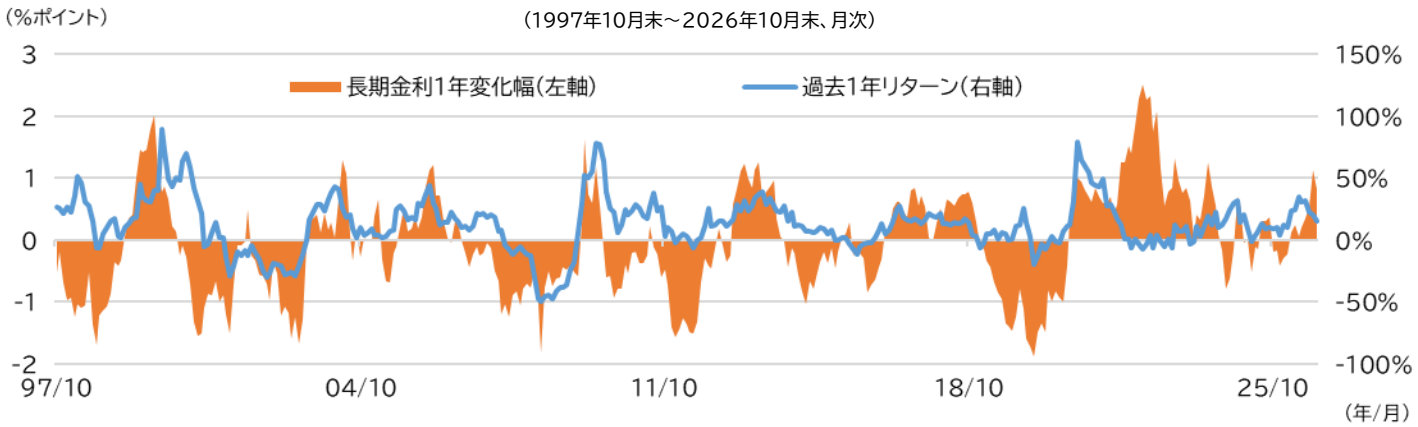


※大型株：S&P500種指数、中型株：S&P400種指数
※PER（株価収益率）：株価が1株当たり利益（EPS）の何倍まで買われているかを示す指標で、「株価÷EPS」で算出し、株価の割高・割安を判断する目安として使われます。

（出所）LSEGのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

市場の変化を見極め、幅広い成長機会から企業の実力を選び抜く

図表3　金利変化幅に対する参考ファンドのリターン



※過去1年リターンは参考ファンドの分配金再投資後の1年間のローリングリターン。長期金利は米10年国債利回りの変化幅。
※上記は投資先ファンドと同様の投資哲学と運用戦略に基づき運用されている参考ファンドの実績です(米ドルベース、信託報酬等コスト控除後)。
当ファンドの運用戦略をご理解いただくために参考情報として示したものであり、当ファンドの実績ではありません。

(出所)LSEGのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

中型株にとって金利上昇局面は必ずしも逆風ではない

一般的に金利上昇は株式市場にとって逆風として捉えられることがありますが、過去約30年間(1997年10月以降)の参考ファンドの推移を見ると、長期金利の上昇局面でも良好なパフォーマンスを上げた局面がありました。長期金利上昇の背景が景気拡大や企業業績の改善である場合、企業収益の成長が株価を支える要因となり得ます。特に中型株は景気や企業の設備投資動向の恩恵を受けやすい傾向があり、経済活動の活発化が追い風になることが期待されます。

また、当ファンドの運用戦略はマクロ環境だけではなく、個別企業の競争力や利益成長力に着目した銘柄選択を行い、様々な市場環境への対応を目指しています。足元では市場で金利上昇への警戒感が高まっているものの、金利だけでなく企業業績や成長性を見極めることが重要であると考えています。

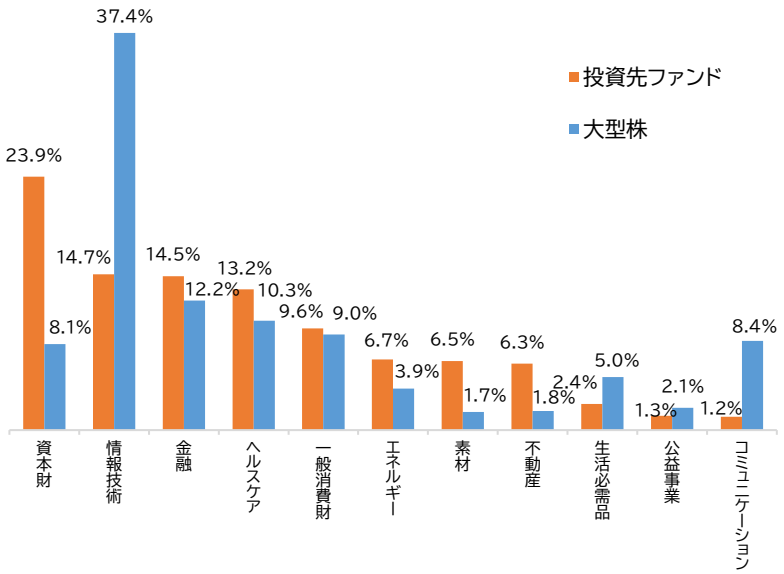
中型株への投資により収益機会の拡大に期待

中型株は大型株とはセクター構成が異なり、特定の大型テクノロジー企業の比率が相対的に低い点が特徴です。

投資先ファンドは、資本財、金融、ヘルスケア、一般消費財などにおいて、相対的に大型株よりも構成比率が高く、多様なセクターの成長機会の獲得を目指しています。足元ではAI関連銘柄を中心に株価変動が大きくなっていますが、中型株は大型株に比べて情報技術セクターの構成比率が相対的に低いことから、その影響が大型株よりも限定的となることが期待されます。

また、大型株中心のポートフォリオに中型株を加えた場合には、大型株と異なる企業特性を持つ中型株への投資により収益機会が広がることが期待されます。加えて、足元でも中型株は大型株に比べて割安な水準にあり、今後の評価見直し余地にも注目しています。

図表4　投資先ファンドと大型株のセクター構成比率



※データは2026年10月末時点。 ※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
※一部のセクターは省略した名称。投資先ファンドはフィデリティ・グローバル・コア株式マザーファンド。大型株はS&P500種指数。
※指数は、当ファンドのベンチマークではありません。市場をご理解いただくための参考としてお見せしています。

(出所)LSEGのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
（金融商品取引業者）					
岡三証券株式会社	関東財務局長（金商）第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長（金商）第169号	○			
岡三ビジネス＆テクノロジー証券株式会社	関東財務局長（金商）第170号	○	○		
JIA証券株式会社	関東財務局長（金商）第2444号	○			○
益茂証券株式会社	北陸財務局長（金商）第12号	○			
野畑証券株式会社	東海財務局長（金商）第18号	○			○
武甲証券株式会社	関東財務局長（金商）第154号	○			

委託会社
お問合わせ先
電話番号
03-3516-1300（営業日の9:00～17:00）
ホームページ
https://www.sbiokasan-am.co.jp

留意事項

■ 投資リスク

基準価額の変動要因

投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様に帰属します。
ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

ファンドの主な基準価額の変動要因としては、各ファンド共通のリスクとして「株価変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」、その他の変動要因としては、「カントリーリスク」、各ファンド個別のリスクとして「為替変動リスク」があります。

※「基準価額の変動要因」は、上記のリスクに限定されるものではありません。

留意事項

●ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
●投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
●ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
●分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
●投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込の受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消すことがあります。
●詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご参照ください。

■ お客様にご負担いただく費用

<お客様が直接的に負担する費用>
●購入時手数料:購入金額(購入価額×購入口数)×上限3.3%(税抜3.0%)
●換金手数料:ありません。
●信託財産留保額:ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>
●運用管理費用(信託報酬):純資産総額×年率1.265%(税抜1.15%)
●運用管理費用(信託報酬)の実質的な負担:純資産総額×年率1.98%(税抜1.80%)程度
●その他費用・手数料
監査費用:純資産総額×年率0.0132%(税抜0.012%)
有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を投資信託財産でご負担いただきます。
また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等、海外における資産の保管等に要する費用等を間接的にご負担いただきます。
(監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。)

○お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
○詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご参照ください。

SBI岡三アセットマネジメント

商 号 等: SBI岡三アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第370号
加入協会:一般社団法人資産運用業協会

<本資料に関してご留意いただきたい事項>
■本資料は、当ファンドに関する情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成日時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いします。